

開発農地に対応した九条ねぎの環境に やさしい生産性・品質向上技術の開発 (農林センター)

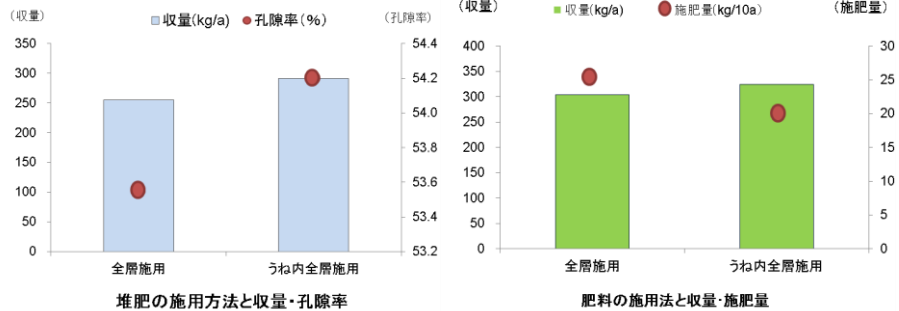
主旨

- ・ 肥培管理方法の見直しで生産性の向上、土壌物理性改善、減肥に成功
- ・ 物理的防除と薬剤防除の併用で、ネギアザミウマ防除

うね内施用で生産性UP! 環境にGood!!

全層施用
(慣行)

うね内全層
施用



物理的防除でネギアザミウマを撃退

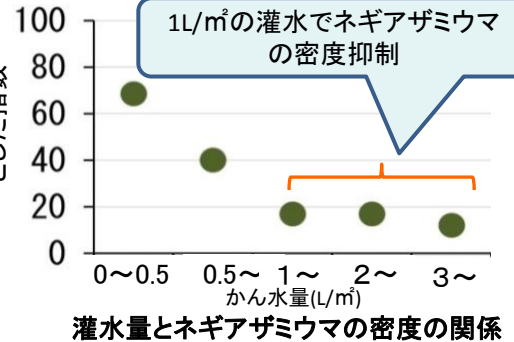


ネギアザミウマとその被害



灌水チューブで灌水

無灌水時の虫数を100とした指数



研究成果

- ・ 牛糞堆肥をうね内全層施用することにより、収量が増加、土壌孔隙率の向上
- ・ 肥料をうね内全層施用することで収量が増加、20%減肥により環境負荷軽減
- ・ 1L/m²週2回以上の灌水で、ネギアザミウマ防除に有効。灌水すると幼虫が水滴とともに落下するため密度が抑制。使用薬剤により効果にバラつきがあるので選定には注意

普及に移す具体的ポイント

- ・ うね面に相当する部分に堆肥・肥料を散布し、うね立てをします。
- ・ 2種類の70日タイプの肥効調節型肥料でN-P-Kを21-12-14kg/10a程度施用します。
- ・ 肥料切れする場合は、一方を肥効の長い肥料(100日タイプ等)にします。
- ・ ネギアザミウマ防除に1L/m²程度の灌水を週2回以上行い、殺虫剤を併用します。
- ・ ネギアザミウマ成虫には有機リン系他4剤の効果が安定しています。